

小林市立病院経営強化プラン2024-2027 点検・評価票

【R7 上半期】

R7

上半期

評価レベル S：予定以上の成果をあげた A：予定どおりの成果をあげた B：進行中・及ばない C：遅れている・はるかに及ばない

■医療機能や医療の質、連携の強化等にかかる数値目標【第4章.1.(4)】

No	項目	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上半期（実績）	年度未見込み	達成率	評価	備考
医療機能									
1	新入院患者数	人/月	162	161	159	160	101%	A	
2	救急車受入件数	件/年	844	860	421	842	49%	B	
3	救急車受入件数のうち入院患者数	人/年	491	498.8	228	440	46%	B	
4	救急車受入件数に対する入院率	%	58%	58%	54%	56%	93%	B	
5	手術件数	件/年	522	540	275	550	51%	A	
6	全身麻酔手術数	件/年	470	485	236	472	49%	B	
医療の質									
7	在宅復帰率	%	-	-					
8	在宅復帰率：急性期一般病棟入院料1	%	92%	92%	89.9%	90%	98%	B	
9	在宅復帰率：地域包括ケア病棟入院料2	%	94%	94%	91.1%	90%	97%	B	
10	平均在院日数	日							
11	平均在院日数：急性期一般病棟入院料1	日	12	12.0	13	13	92%	B	
12	平均在院日数：地域包括ケア病棟入院料2	日	21	45.0	24	24	188%	S	
13	平均在院日数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	日	53	-	-	-	-	-	
14	訪問看護ステーションの立ち上げ	-	-	○	○	○	○	A	
連携の強化等									
15	紹介率	%	44.9%	50.0%	66.7%	65.0%	133%	S	
16	逆紹介率	%	72.5%	72.5%	106.0%	100.0%	146%	S	

■経営指標に係る数値目標【第4章.6.(1)】

No	項目	単位	R4（実績）	R6（計画）	R6総合（実績）	年度未見込み	達成率	評価	備考
収支改善									
17	経常収支比率	%	102%	99%	101%	92%	102%	B	
18	医療収支比率	%	87%	88%	76%	81%	86%	B	
19	修正医療収支比率	%	83%	84%	51%	77%	61%	B	
収入確保の視点									
20	病床数（感染症病床4床含む）	床	147	147	147	147	100%	A	
21	病床数：急性期一般病棟入院料1	床	100	100	100	100	100%	A	
22	病床数：地域包括ケア病棟入院料2	床	26	47	47	47	100%	A	
23	病床数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	床	21	-	-	-	-	A	
24	平均入院患者数	人/日	92.2	95.0	85	88	89%	B	84.2
25	平均入院患者数：急性期一般病棟入院料1	人/日	61.4	62.0	58	58	94%	B	57.9
26	平均入院患者数：地域包括ケア病棟入院料2	人/日	15.8	33.0	27	30	82%	B	26.3
27	平均入院患者数：回復期リハビリテーション病棟入院料3	人/日	15.1	-	-	-	-	-	
28	病床稼働率	%	63%	65%	61.2%	62%	95%	B	
29	病床稼働率：急性期一般病棟入院料1	%	61%	62%	62.6%	60%	101%	A	
30	病床稼働率：地域包括ケア病棟入院料2	%	61%	70%	58.2%	68%	83%	B	
31	病床稼働率：回復期リハビリテーション病棟入院料3	%	72%	-	-	-	-	-	
32	入院平均単価	円/人/日	47,553	48,593	51,023	48,500	105%	A	
33	入院平均単価：急性期一般病棟入院料1	円/人/日	56,085	56,100	59,099	56,600	105%	A	
34	入院平均単価：地域包括ケア病棟入院料2	円/人/日	32,580	34,490	33,282	32,706	96%	B	
35	入院平均単価：回復期リハビリテーション病棟入院料3	円/人/日	28,813	-	-	-	-	-	
36	外来稼働日数	日/年	244	242	242	242	100%	A	
37	平均外来患者数	人/日	123.7	125.0	113.28	120	91%	B	
38	平均外来単価	円/人/日	16,011	16,000	16,212	16,000	101%	A	
39	在宅平均患者数	件/日	-	5.9	2.8	3.0	47%	C	
40	平均在宅患者数：訪問診療	件/月	-	20	1.3	2	7%	C	
41	平均在宅患者数：訪問看護	件/月	-	100	88.1	60	88%	B	
42	在宅平均単価	円/人/日	-	-	-	-	-	-	
43	在宅平均単価：訪問診療	円/人/日	-	10,000	7,620	8,880	76%	B	
44	在宅平均単価：訪問看護	円/人/日	-	7,500	9,465	9,000	126%	S	
経費削減の視点									
45	対医療収益給与比率	%	70%	71%	77%	78%	90%	B	
46	対医療収益材料費率	%	23%	22%	27%	21%	80%	B	
連携の強化等									
47	（参考）常勤医師数	人	12	14	13	13	93%	A	
48	内科医師増加数	人	-	2	0	0	0%	C	
49	薬剤師増加数	人	-	1	1	1	0%	A	R6に目標達成済

小林市立病院経営強化プラン2024-2027 点検・評価票

R7	上期
----	----

【R7上半期 詳細】

■医療機能や医療の質、連携の強化等にかかる数値目標【第4章.1.(4)】

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
1	新入院患者数	人/月	162	161	159.00	160.00	101%	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
地域医療支援病院の責務を果たすため、二次医療（精密検査・手術等）に特化した診療を行っている。一般外来を制限（紹介診療を基本）して診療を行っているため、救急患者や他院からの紹介等による患者確保に取り組んでいる。				新入院患者数については、目標値を若干下回る数値で推移している。10月から整形外科の常勤医師が1名体制となったことから、新入院患者数の推移にどのように影響があるか注視していく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
2	救急車受入件数	件/年	844	860	421.00	842.00	49%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
救急科・総合診療科を中心に、緊急度の高い患者の受け入れを積極的に行っている。令和7年度上半期における救急車受入件数は421件で推移している。昨年度途中から消防車両を活用したドクターカーの運用を開始しており、管内での救急体制を消防と連携し体制を構築している。 【ドクターカー運用実績】 R6年12月～令和7年3月 : 9件 R74月～令和7年9月 : 4件				救急車の受入件数については、上半期の件数を維持しつつ、より入院加療が必要となる患者の受け入れを管内救急隊と連携しながら入院患者の増にも寄与するよう取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
5	手術件数	件/年	522	540	275.00	550.00	51%	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
手術においては、腹腔鏡を用いた手術を積極的に行っている。令和7年度上半期における病院全体の手術件数は、275件である。				手術件数についても目標値をわずかに超える件数で推移している。手術件数が入院患者の増減に多きく影響するため、本数値を注視しながら目標値をクリアできるよう取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
6	全身麻酔手術数	件/年	470	485	236.00	472.00	0.49	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度上半期における全身麻酔手術数においては236件で、目標値をわずかに下回っている。				手術の質に関わる部分であるが、手術件数と同様に目標値をクリアできるよう取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
8	在宅復帰率：急性期一般病棟入院料1	%	92%	92%	90%	90%	98%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
一般病棟の在宅復帰率においては、地域包括ケア病棟の活用や令和6年7月に開設した訪問看護ステーションを活用しながら在宅復帰率の向上に努めている。令和7年度上半期における在宅復帰率については90%でわずかに目標を下回っているものの施設基準はクリアしている。				現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
9	在宅復帰率：地域包括ケア病棟入院料2	%	94%	94%	91%	90%	97%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
地域包括ケア病棟の在宅復帰率については、急性期を経た患者へのリハビリテーションを積極的に行い、入院初期からメディカルソーシャルワーカーや退院調整看護師が介入し、在宅復帰に向け関係職種と連携して取り組む。令和7年度上半期における在宅復帰率については91%で、わずかに目標を下回っている。				現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
11	平均在院日数：急性期一般病棟入院料1	日	12	12.0	13.00	13.00	92%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
急性期一般入院料の平均在院日数については、令和7年度上半期が13日で、目標値をクリアしている。				急性期一般病棟においては、これまでの運用のとおり、検査や手術を行いながら早期在宅復帰に向けて取り組むとともに、地域包括ケア病棟への転棟を行いながら治療継続を行い在宅復帰に向けて治療を継続する流れを今後も継続していく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
12	平均在院日数：地域包括ケア病棟入院料2	日	21	45.0	24.00	24.00	188%	S
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
地域包括ケア病棟入院料の平均在院日数については、令和7年度上半期が24日で目標値を大きく上回っている。				地域包括ケア病棟の平均在院日数が短くなっている要因については、当該病棟の入院患者において、医師や看護師、リハビリスタッフや管理栄養士等との連携により比較的早期に患者が軽快になり、在宅へ帰することができている他、救急患者の比較的軽症な患者の経過観察、レスパイト入院により、在宅復帰率が短くなっているものである。引き続き、患者の様態を注視しながら適正な診療を提供していく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
14	訪問看護ステーションの立ち上げ	-	-	○	○	○	○	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
経営強化プランでは、令和6年度中に新規立ち上げを予定していたが、令和6年7月1日に小林市立病院訪問看護ステーションを新規開設した。				引き続き、訪問看護事業を充実させながら、終末期の患者や家族が在宅で診療を行いたいという希望に応えられるよう努力していく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
15	紹介率	%	45%	50.0%	67%	65%	133%	S
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度の上半期の紹介率は、67%で目標をクリアしている。 (参考) 地域医療支援病院における紹介率の基準 : 50%以上				一次医療を提供している医療機関からの紹介については、検査や手術・入院に繋がることから、医師会とも連携して紹介率の向上に向けて取り組んでいく。				

No	第4章.1.(4)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
16	逆紹介率	%	73%	72.5%	106.0%	100%	146%	S
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度の上半期の逆紹介率は、106%で目標をクリアしている。 (参考) 地域医療支援病院における逆紹介率の基準 : 70%以上				紹介された患者が、軽快となった時点で紹介元の医療機関へ逆紹介を行っている。また、直来の患者や当院での加療が不要となった患者を管内の医療機関へ逆紹介を行っている。				

■経営指標に係る数値目標【第4章.6.(1)】

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
17	経常収支比率	%	102%	99%	101%	92%	102%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和7年度の上半期の経常収支比率は、101%で目標をクリアしている。収支改善に向けた取り組みとしては、患者数の増、経費削減等に取り組んでいるものの医師確保など大きな変化がない限り大幅な改善は見込めない現状である。					年度末見込みは92%(目標値の95%)となる見込みである。入院患者数の増を目標に、収益の増に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
18	医業収支比率	%	87%	88%	76%	81%	86%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和7年度の上半期の医業収支比率は、76%で目標値を下回っている。収支改善に向けた取り組みとしては、患者数の増、経費削減等に取り組んでいるものの医師確保など大きな変化がない限り大幅な改善は見込めない現状である。					年度末見込みは81%(目標値の92%)となる見込みである。入院患者数の増を目標に、収益の増に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
19	修正医業収支比率	%	83%	84%	51%	77%	61%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和6年度の上半期の修正医業収支比率は、61%で目標値を下回っている。収支改善に向けた取り組みとしては、患者数の増、経費削減等に取り組んでいるものの医師確保など大きな変化がない限り大きな改善は見込めない現状である。					年度末見込みは77%(目標値の92%)である。入院患者数の増を目標とするとともに、収益の増に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
22	病床数：地域包括ケア病棟入院料2	床	26	47	47.00	47.00	100%	A
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
計画では、令和6年度に回復期リハビリテーション病棟を地域包括ケア病棟に変更をする予定であったが、実施時期を前倒しし、令和6年3月1日に病棟の変更を既に実施済みである。					現状の運用を継続しながら、目標達成に向け引き続き取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
24	平均入院患者数	人/日	92.2	95.0	85.00	88.00	89%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和7年度の上半期における平均入院患者数は85人/日で、目標をわずかに下回っている。地域包括ケア病棟の患者数が対前年比で下回っている。 (内訳) 急性期一般病棟 : 57.9人 (58人) 地域包括ケア病棟 : 26.3人 (27人)					平均入院患者数が、収益に大きく影響するため、各診療科において入院患者の受け入れを積極的に行いながら目標達成に向けて取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
28	病床稼働率	%	63%	65%	61%	62%	95%	B
これまでの取り組み、達成状況等					改善策・今後の取組事項等			
令和7年度の上半期における病床稼働率は62.8%で、わずかに目標を下回っている。地域包括ケア病棟の稼働率が対前年比で下回っている。 (内訳) 急性期一般病棟 : 61.2% 地域包括ケア病棟 : 58.2%					平均入院患者数の増を目標とするとともに、病床の稼働率向上に取り組んでいく。			

No	第4章.6.(1)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
32	入院平均単価	円/人/日	47,553	48,593	51,023.00	48,500.00	1.05	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
診療報酬改定に伴い、算定できる施設基準においては届出を行いながら、より質の高い医療を提供できるよう取り組んでいる。また、DPCの係数が収入に影響するため、係数アップに向けた取り組みを診療情報管理士を中心に医師と連携して取り組んでいる。				現状の体制を維持し、救急や手術、検査を中心とした医療の提供により入院患者や入院単価の増を目指していく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
37	平均外来患者数	人/日	123.7	125.0	113.28	120.00	91%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度の上半期における一日平均外来患者数は113人で目標値を12人下回っている。				一次医療と二次医療の役割分担を行っているなかで、初診の患者を制限しているため外来患者数を大幅に増やすことは難しいが、紹介患者等を積極的に受け入れ、年度末に向けて目標を達成するよう取り組んでいく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
38	平均外来単価	円/人/日	16,011	16,000	16,212.00	16,000.00	1.01	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
平均外来単価については、減少傾向にある。現状では、紹介診療を中心に行っており、外来の患者の減少理由については、人口減少に起因するものや、コロナ感染症の分類が2類から5類に見直されたことによるものと分析している。				現状を維持しながら、内科医（総合診療科の医師を含む。）の確保等により、外来患者の増が見込まれるため、引き続き医師確保に取り組んでいく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
40	平均在宅患者数：訪問診療	件/月	-	20	1.30	2.00	7%	C
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度上半期における月当たりの訪問診療及び往診の実績件数は8件で、目標値を下回っている。 ※訪問看護ステーションの開設：令和6年7月1日				訪問診療においては、内科医（総合診療医を含む。）が不在のため、積極的に訪問診療を行う体制が整っていない。引き続き、医師確保に取り組むと共に、体制整備を強化する。今後は、救急科・総合診療科にも協力を得ながら、在宅診療を強化する体制づくりを進める。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4（実績）	R7（計画）	R7上期（実績）	年度末見込み	達成率	評価
41	平均在宅患者数：訪問看護	件/月	-	100	88.10	60.00	88%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度上半期における月当たりの訪問看護件数は平均88件/月で目標値を上回っている。 ※訪問看護ステーションの開設：令和6年7月1日				訪問件数については、当面、100件/月を目標に取り組んでいく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
43	在宅平均単価：訪問診療	円/人/日	-	10,000	7,620	8,880	0.76	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
訪問診療や往診の単価は、診療報酬で定められており、現状の診療単価で推移する見込みである。緊急の往診には加算（325点）も付くため、患者のニーズに応じて対応できた。				内科医が不在のため、現状では外科医がその一端を担っているが、救急科・総合診療科にも協力を得ながら、往診や訪問診療の体制強化を図っていきたい。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
44	在宅平均単価：訪問看護	円/人/日	-	7,500	9,465.00	9,000.00	126%	S
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
訪問看護の平均単価については、緊急訪問などの件数が想定より多く、平均単価が計画を上回る結果となった。				今後においてもサービスを受ける患者への積極的支援を行えるよう体制を維持する。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
45	対医業収益給与比率	%	70%	71%	77%	78%	92%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度の上半期の医業収支比率は、77%で目標をクリアしている。				年度末見込みは78%（目標値の92%）となっている。今後の給与費の増も見込まれるため引き続き入院患者数の増を目標に捉え、収益の増に取り組んでいく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
46	対医業収益材料費率	%	23%	22%	27%	21%	80%	B
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和7年度の上半期の医業収支比率は、27%で目標をクリアしている。 なお、上半期評価は、決算時に計上する経費を切り分けて計上できないため、数値上はプラス側で計上される。				年度末見込みは21%（目標値の80%）である。効率的な経費削減に取り組み、年度末に向けて目標を達成するよう取り組んでいく。				

No	第4章.6.(1)	単位	R4 (実績)	R7 (計画)	R7上期 (実績)	年度末見込み	達成率	評価
49	薬剤師増加数	人	-	1	1.00	1.00	0.00	A
これまでの取り組み、達成状況等				改善策・今後の取組事項等				
令和6年度に目標としていた薬剤師の確保ができたため、令和7年度の新たな薬剤師の募集は行っていない。 薬剤師は、令和7年4月で10名在職中である。（内1名は宮崎大学医学部附属病院からの在籍出向職員である。）				今後の方針としては、現在の薬剤師10名を維持しながら、院内の薬剤業務のシェアを広げ、医師の業務負担軽減や入院患者への薬事指導など資格を最大限活かしながら医療の質の向上に取り組んでいく。				